



青山学院大学 文学部  
比較芸術学科

→ Department of Comparative Arts ←

——比較芸術学科に関するお問い合わせ先——

【文学部 比較芸術学科】〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel 03-3409-9527  
<https://www.aoyama-comparative-arts.jp/>

青山学院大学 文学部

# 比較芸術学科 2024



# 比較芸術学科

人間はつねに芸術とともに歩んできました。  
人類のスタートである原人たちが用いた素朴な道具に、  
すでに「用の美」ともいるべき形態への美意識が芽生えていたことは数々の遺物が物語っています。  
そして、原人から旧人をへて私たちの祖先の新人=現生人類にいたって、  
お互いの意志を伝える原始言語—それには音楽や演劇の原型も含まれていたでしょう—が生まれ、  
フランスやスペインの洞窟壁画が制作されるとともに、  
やがて文字の出発点としての象形文字が生まれています。  
これらを振り返ると、芸術活動こそが人間を人間たらしめている本質といえるかもしれません。  
比較芸術学科は、この人類の根源的能力としての“芸術”に着目して生まれました。  
ここではまず五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)をとぎすませて学ぶこと、それが第一のモットーです。  
それらを通じて最終的には“第六感”=インスピレーションを獲得することができればとも考えます。  
ここでのインスピレーションは、“五感”をとぎすませて得られた“叡知”や“創造力”的ことです。  
この学科では、さまざまな芸術が人類の叡智の歴史にいかに寄与してきたか、  
その芸術的創造力の本質や魅力を学びます。  
本学科は、伝統的・古典的な芸術として長い歴史を刻んできた  
「美術」「音楽」「演劇映像」という3つの領域で構成されます。  
これらは古典や伝統、歴史を基盤とする人文学の基本というだけでなく、  
現代社会の芸術・文化の本質を知るうえでも欠くべからざる領域といえましょう。  
これら芸術諸領域の幅広い比較学習・研究を通じて、  
学生個々の“人間力”が確立されることを願っています。



## 学びの特色

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」を学びのコアとして、3つの領域を相互に連関させ、理論学習と体験・実践学習とを組み合わせながら学び深めていきます。



## 3つの領域と主な科目

21世紀を生きる私たち。その五感を刺激する古典を中心とした芸術を比較学習・研究する「新たな学び」が始まっています。



# カリキュラムガイド

## カリキュラムの特徴

「比較学習」「古典重視」「鑑賞教育」の3つに集約されます。「比較学習」は、3領域それぞれの時代的・地域的比較はもとより、領域相互の比較検討、そして他の人文諸学との比較も含まれます。芸術が本来、各ジャンルの相互関連により成り立っていることを前提としたものです。「古典重視」は文字通り東西の古典テクストの読解を重視することです。「鑑賞教育」は生の芸術作品の鑑賞を踏まえた教育です。これら基礎の段階から徐々に専門へと、段階を追ってカリキュラムは設定されますが、大切なことはまず固定観念を棄てること、そして改めて自分にもっとも合った専門領域を選択していくことです。結果としてそれは、学生諸君の以後の幅広い芸術的視野からの学習・研究を可能とし、将来的には社会への着実な貢献を約束してくれるでしょう。

学科科目(必修)	20単位
学科科目(選択必修)	50単位
外国語科目	8単位
青山スタンダード科目	24単位
自由選択科目	26単位
卒業要件単位	128単位

### 学びのポイント

#### 芸術を「比較」しながら学ぶ

「比較」による学習・研究は、この学科の学びの基本です。1年次の「比較芸術学入門」は、本学科の専任スタッフと一部非常勤講師によってオムニバス形式でおこなわれるもので、展覧会や演奏会、舞台、映画などの鑑賞を前提に、その解説とレポート作成によって「美術」「音楽」「演劇映像」の実際を比較しながら体験的に学びます。1・2年次の「各領域と文芸」でも、2分野以上を選択することで各領域と文芸との関係とそれぞれの本質を学びます。

#### 文章のデッサン力を鍛える

この学科では1年次の「比較芸術学入門」から3・4年次の「演習」にいたるまで、生の作品鑑賞を基本とする学習・研究を積み重ねます。そこでの鑑賞レポートはたんなる感想文ではなく、その作品が具体的に美術なら形体や色調、構図その他、音楽なら楽器や声の音色、アンサンブルその他、演劇なら役者の所作やせりふ回しその他等々、細部にいたる観察による言語化(ディスクリプション)の訓練を義務づけ、言葉のデッサン力の獲得を目指します。

#### 古典テクストを読む

本学科は生の芸術作品を鑑賞することと並行して、古典テクストの読解にも力をいれます。芸術作品はいわば歴史や文化の「非文字資料」ですが、やはりそれらの編年や意味の詳細を理解するには文字資料であるテクストの読解が不可欠です。ある国の美術や音楽、演劇映像を真に理解するには、その国々の言語を理解せずして済ますことはできません。「原書講読」では英語はもちろん、漢文・古文のテクストもとり上げます。

#### 芸術鑑賞の基本を学ぶ

「芸術鑑賞の方法」では、そこに何が表され、何を意味しているのかという美術解釈の基本となる图像学をはじめ、具体的な美術作品の調査法、絵画や彫刻の簡単なデッサンの技法、西洋音楽や日本伝統音楽の楽曲分析、古い楽譜の解読や演奏法、日本古典芸能や西洋演劇では演技者や舞踊家による実技を前提とした所作や動きの意味、道具の役割など、作品鑑賞に必須の基礎知識を学びます。

## 1年次

鑑賞教育の基礎を学ぶことにより、I美術・II音楽・III演劇映像それぞれのジャンルの通史的理解を前提に、それと同時代の諸文芸との関連を比較・学習することで芸術系3領域それぞれの特性のより明確な把握を目指す。

## 2年次

各領域における「基礎演習」「原書講読」「鑑賞の方法」などの専門科目の比較学習・研究を徹底することにより、各領域それぞれの共通性や異質性への学問的認識を深める。

## 3年次

2年次よりひきつき、比較学習・研究を徹底する。各領域の専任教員のもとで本格的な演習の履修がはじまり、より専門性の高い教育内容の修得を目指す。

## 4年次

各領域ゼミナールとも選択必修科目の「特別演習(卒業論文)」により卒業論文(本文2万字程度)の作成指導をおこない、専門的研究の出発点とする。各専門領域の知識のさらなる修得に努める。

### 専門基礎科目

比較芸術学入門A／比較芸術学入門B／西洋の文芸と美術A  
西洋の文芸と音楽A／西洋の文芸と演劇映像A／  
日本・東洋の文芸と美術A／日本・東洋の文芸と音楽A／  
日本・東洋の文芸と演劇映像A

芸術と文学／芸術と法

※領域は次のように表されます。  
I 美術／II 音楽／III 演劇映像

### 専門選択科目

(イ)～(ト)までは上記による、2つ以上の領域から単位を取得すること

西洋の文芸と美術B／西洋の文芸と音楽B／西洋の文芸と演劇映像B／日本・東洋の文芸と美術B／日本・東洋の文芸と音楽B／日本・東洋の文芸と演劇映像B

基礎演習 I(1)(2)(3)、II(1)(2)、III(1)(2)(3)

原書講読 I(1)(2)(3)、II(1)(2)、III(1)(2)(3)

[芸術鑑賞の方法 I] (1)人体・静物等のスケッチと模写・模造  
[芸術鑑賞の方法 II] (1)中世・ルネサンス・バロック時代の記譜法  
[芸術鑑賞の方法 III] (1)歌舞伎と歌舞伎舞踊

(2)西洋美術作品の鑑賞法と鑑賞発表 (3)国内外の美術館・博物館の鑑賞法  
(2)古楽器の特徴と声楽における古楽演奏 (3)世界各地の多様な音楽・舞踊・芸能等の文化  
(2)舞台芸術はいかにして生まれるか (3)アトラクションの映画の現代的意義

[比較芸術学特講 I] (1)キリスト教におけるイメージの問題  
(6)江戸時代の名勝図探訪  
[比較芸術学特講 II] (1)近代フランス音楽の諸相  
(5)・(6)リヒャルト・シュトラウス 楽劇  
[比較芸術学特講 III] (1)近現代演劇の戯曲分析と演出比較

(2)イタリア・ルネサンス美術の展開 (3)18世紀フランス美術 (4)20世紀美術の前衛とデザイン (5)18世紀京都画壇の絵師たち  
(7)奈良時代から平安前期に及ぶ日本密教の展開とその造形をめぐる問題 (8)平安中期から後期の「日本における密教造像の展開とありよう」  
(2)近世中後期の上方歌舞伎囃子方 (3)ショスタコーヴィチのオペラ《ムツエンスク郡のマクベス夫人》への理解 (4)ショスタコーヴィチのオペラ創作と上演背景『ばらの騎士』研究  
(2)西洋演劇と日本の伝統芸能の異文化接触 (3)・(4)「新歌舞伎の世界」 (5)・(6)アメリカとフランスの映画史

比較芸術学演習 I(1)(2)(3)(4)、II(1)(2)、III(1)(2)(3)

特別演習(卒業論文)

### 選択科目

美学・芸術思想／西洋の宗教と芸術／日本・東洋の宗教と芸術

博物館実習I／博物館実習II ※3年次・4年次のみ履修可能

### 外国語科目

英語講読 I／英作文

英語講読 II／オーラル・イングリッシュ

### 全学共通科目

青山スタンダード科目 学部・学科の所属に関わりなく、専門領域を越えて様々な学問分野の知識を身につけます。

### 自由選択科目

学科科目、青山スタンダード科目、外国語選択科目の必要単位以上の履修、文学部共通科目、文学部他学科、他学部開講科目の履修が可能です。 勉強したい科目を自由に選択し、卒業に必要な単位とすることができます。

# 美術

美術と他の芸術との違いはどこにあるでしょうか？

洞窟壁画にしても、ギリシア彫刻にしても、飛鳥時代や奈良時代の仏像にても、経年による外見の変化こそあれ、「もの」として今も存在し続けており、観る者の心に直接訴えています。その美しさに見とれていると「時の隔たり」を忘れてしまうほどです。

しかし美術作品にはもう一つ重要な側面があります。どんな作品であれ「時代の鏡」であり、それを生み出した社会のありかたを反映しているのです。たとえば市民階級が成熟して美術の主な受容者に成長した17世紀のオランダでは親しみやすい分野である風景画、風俗画、静物画が独立して流行し、同じく町民層の富に支えられた江戸時代の日本でも庶民的美術の華である浮世絵が大発展を遂げました。

さらに美術作品は「美術それ自体の歴史」にも深く組み込まれています。古典古代の格言「自然は芸術の師」に倣って表現すれば「美術こそが美術の師」であり、一見どれほど独創的に見えようとも、美術作品というものは、程度の差こそあれ、過去に生みだされた偉大な作品の伝統に連なっているからです。作品の真の理解には、美術の伝統を知ることが不可欠なのです。

このコースでは「時代に規定されている」と同時に「時代を超えた存在」でもある美術作品の本質を、さまざまなアプローチを通じて総合的に理解してもらうことを目指します。

## 西洋美術

絵画を中心にして、西洋美術における主な素材と技法、ギリシア神話やキリスト教に関連した主な主題と図像、描写対象による絵画の分類およびその序列の歴史、今日ではとかく「非実用的なもの」の代表格とみなされがちな美術作品が担ってきた各種の実用的機能、「芸術家」のイメージの変遷などさまざまな問題について考えます。

## 日本・東洋美術

原始時代から今日まで、日本や東洋にはさまざまな形の美術が生まれてきました。日本美術では縄文～近現代の美術の様式変遷とその歴史的背景を振り返ります。東洋美術では日本美術と関係の深いもの―仏教美術や水墨画、工芸ほかに焦点をあて、その理解を深めるとともに、日本美術との比較を通して互いの特色を考えます。

## Message

Chiyon  
Mizuno

水野 千依



京都大学大学院文学研究科美学美術史専攻博士後期課程単位取得退学、フィレンツェ大学、日本学術振興会特別研究員、京都造形芸術大学教授を経て、2015年より現職。博士（人間・環境学）。専門は、イタリア中・近世美術史・芸術理論。主著・共著に、「カラヴァッジョ鑑」（人文書院、2001年）、「イメージの地層」（名古屋大学出版会、2011年）、「キリストの顔」（筑摩書房、2014年）、主な訳書に、ディディ＝ユベルマン『残存するイメージ』（人文書院、2005年）、セヴェーリ『キマイラの原理』（白水社、2017年）など。「イメージの地層」で、第34回サントリー学芸賞、第1回フォスコ・マライニ賞、他受賞。

西洋の美術、なかでも中世からルネサンスにかけてのイタリア美術史を専門に研究しています。

美術作品というと、私たちはまず「美しいもの」として鑑賞する対象だと考えがちです。しかし、Artという言葉が「美術」を意味するようになったのは近代以降のことです。古くは「技芸」をさしていました。現在、美術館に収められ、鑑賞対象として眺められている作品の多くは、かつては崇拜対象だったり、神への捧げ物だったり、呪術力や奇跡力など、美的価値にとどまらない力をそなえ、見るものに、崇敬、畏怖、祈願、呪詛、魅惑…といった多様な感情をかき立ててきました。私は、こうした近代以前の造形物を、伝統的な美術史の手法で理解するとともに、それらがかつて人々の生活のなかでいかに息づき、いかに受容されていたのかを、歴史人類学的視座から考え直したいと思っています。それぞれの時代がいかにイメージを生きてきたのかを問うことは、同時に、何を「美」としたのかを理解することにもつながります。西洋美術の歴史を辿りながら、イメージと人間が取り結ぶ豊かな関係を一緒に考えていくことができれば幸いです。



池野 紗子

Ayako  
Ikeno



京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士（人間・環境学）。専門は西洋を中心とした近現代美術・視覚文化。とくに20世紀イタリアの美術を研究している。著書に『アルテ・ボーヴェラ——戦後イタリアにおける芸術・生・政治』（慶應義塾大学出版会、2016年）。共著に中村靖子編『非在の場を拓く——文学が拓く科学の歴史』（春風社、2019年）。分担執筆に岡田温司編『ジョルジョ・モランディの手紙』（みすず書房、2011年）など。

西洋を中心とした近現代美術を研究しています。20世紀美術の面白いところは、「美術」という枠組にはおさまらない越境的な性格を持っている点です。従来の「美」という価値基準では理解できない、びっくりするような作品がたくさん生まれました。私はそうして生み出された芸術作品が、政治や社会と切り結ぶ関係に興味を持ち、第二次世界大戦後の美術を例に研究してきました。最近では、世界大戦下の前衛芸術の変容に关心を寄せています。現代美術は難しい、わからないと評判ですが、そもそも歴史上、あらゆる美術はかつて現代美術でした。今は名画とか傑作と呼ばれる作品が、発表当時には批判の対象であったことも少なくありません。頭と心と眼を柔らかくして、未知の、新しい価値を理解する楽しさを知ってもらえたと願っています。

津田 徹英

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。のち同大学より博士（美学）を取得。専門は日本彫刻史、密教图像学。とくに平安時代（9～12世紀）の密教彫刻を研究対象にしているが、フィールド・ワークの範囲は、奈良時代（8世紀）の脱活乾漆造の技法研究から、鎌倉・南北朝時代（13～14世紀）の肖像研究（彫刻・絵画）、詞書の筆跡を中心とする絵巻研究に及ぶ。単著に『中世の童子形（日本の美術442）』（至文堂、2003年）、『平安密教彫刻論』（中央公論美術出版、2016年）、編著に『組織論—制作した人々（仏教美術論集6）』（竹林舎、2016年）などがある。

「はてなの茶碗」という上方落語をご存知だろうか？ 京都・清水寺界隈の茶店で普通に使われてきた安手の数茶碗のひとつが、さまざまな人の手に渡るうちに千両で売れてしまうという物語だ。こんな話を持ち出したのも、今日、美術館や博物館で展示ケースの向こう側で「美術作品」あるいは「文化財」として認識されている造形が、必ずしも最初からそのように評価されるべく生まれてきたわけではないということに気付いて欲しいからである。いつたんそれに貼り付いてしまった「居心地のいい？」評価から距離を置き、改めて対象そのものに向かい合い、どのような環境（社会、制度、組織）のなかで、その「かたち」が生まれ、類作・類品のなかで何故、それが「評価」されるのか、それらのことがらを古代・中世の宗教造形を研究対象にして、東アジアの動向を見据えつつ皆さんと考えたいと思います。

Tetsuei  
Tsuda



Sachiko  
Idemitsu



出光 佐千子

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。博士（美学）。専門は日本絵画史。研究テーマは、江戸時代の水墨画の巨匠・池大雅の風景画をめぐる詩と画の鑑賞サークル。現在は、大雅が憧れた室町水墨画や、近代南画（小杉放菴）、人々の暮らしを描いた風俗画にまで関心が広がる。著書に『大雅・蕪村・玉堂と仙庵—「笑」のこころ』（出光美術館、2011年）、『没後50年 小杉放菴—東洋への愛』（出光美術館、2015年）、共著に『風俗絵画の文化学』I・II・III（思文閣出版、2009年、2012年、2014年）。

水墨画と聞くと、地味で好きになれない感じてしまう人もいるかもしれません。実際にはモノクロームほど、様々な光や音を伴った豊かな色彩表現はありません。ぜひ寺社や美術館など心静かになる環境で、水墨で描かれた山水や花鳥と、じっくり向き合ってみてください。墨の濃淡を見慣れてくれば、山々は清らかな深緑や紅葉に変わり、川のせせらぎや花鳥の旋律も聴こえてくるはず。

抽象的だからこそ自由な鑑賞をゆるす水墨画の世界は、古来、詩文や名筆を生み出し、それらは時代を超えて画に添えられて一緒に鑑賞されてきました。授業では画と詩の鑑賞を通じて、名画は過去のものではなく、現代に生き続けているという感動を味わいます。海外の舞台で活躍できる人になるためにも、屏風や絵巻などに日本美術のユニークな感性を皆様と再発見してゆきたく思います。

# 音楽



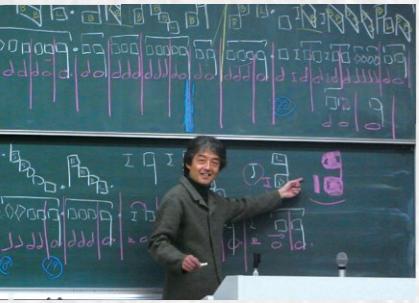
## Message

### 那須 輝彦

立教大学大学院文学研究科博士後期課程退学、ケンブリッジ大学大学院修士課程修了(Master of Philosophy)。中世からバロック時代にかけての音楽、とくにイギリスの教会音楽史と中世の音楽理論を専攻。著作に、『ヘンリ8世の迷宮～イギリスのルネサンス君主』(共著、昭和堂、2012年)、『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)、『ミクロログス(音楽小論)』(共著、春秋社、2018年)など。青山学院大学聖歌隊指揮者も務める。



中世ルネサンス～バロック時代の音楽を研究しています。中世の音楽理論などと聞くと、遙か昔の難解きわまる話に聞こえるでしょう。でもじつは西洋音楽の根本を考えるということなのです。たとえばピアノの白鍵と黒鍵はどうしてああいう並び方をしているのか、ドレミの階名は誰がどうして考えたのか、音の高さやリズムを書き表すためにヨーロッパ人はどのような工夫を重ねてきたか……。当時の人々の立場に立ってその思考経路を追体験するのもとてもスリリングなことです。もちろん当時の音楽作品も素晴らしい。吟遊詩人が綴った愛の歌、ゴシック大聖堂に響いていた絢爛豪華なア・カペラの教会音楽、宮廷舞踏会を彩った典雅な舞曲……。みなさんにとって未知の傑作がどれほどあることでしょう。過去千年におよぶ音楽の宝庫に足を踏み入れ、感動し、名作がどのように作られたのか、誰によってどのように演奏されていたのか、音楽の知の探求にかけようではありませんか!



人はなぜ、ある音と音との組み合わせに快を感じるのでしょうか。  
傑作はどうして万人を感動させるのでしょうか。  
古今の名曲はいったいどういう仕組みになっているのか、  
なぜそのような作品が生み出されたのか、どんな社会だったのか……。

ありとあらゆる音楽が溢れ、しかしメロディもコードも出尽くして、  
世代を超えた傑作の誕生が行き詰まっている今こそ、  
過去一千年の風雪に耐えた古典に立ち返る時です。

—グレゴリオ聖歌、パレストリーナ、バッハ、モーツアルト、  
ベートーヴェン、ショパン、チャイコフスキイ、ヴァーグナー、  
ストラヴィン斯基、そしてビートルズ……。  
古典の真価に触れた経験は、  
あなたの人生にとってかけがえのない魂の糧となり宝となるでしょう。

音の美の探求は、中世からヨーロッパの大学で営まれてきた  
由緒ある学問です。知の源泉を訪ねる旅に出ようではありませんか。

### 西洋音楽

古代ギリシアから現代にいたる西洋音楽について、名曲を学ぶことはもちろん、政治・宗教や他の芸術との関係、音楽理論や楽譜の変遷、音楽家という職業、楽器とその演奏法、楽譜出版・演奏会、録音技術の影響など、多角的な視点から考えることにより、音楽芸術についての幅広い知識と鋭い洞察力を養うことをめざします。

### 日本・東洋音楽

日本や東洋には様々な楽器や歌による音楽、仮面舞踏や音楽劇のような他の芸術と関連した多種多様な音楽があります。これらを理解し、その音楽を生み出した人々の美意識や社会的背景、各楽器や楽譜などの伝承方法と現代への変化の過程などを比較・検証することで、人間と音楽の関係を考え、豊かな感性を養うことを目指します。

### 広瀬 大介

一橋大学大学院言語社会研究科・博士後期課程修了。博士(学術)。専門は19世紀後半～20世紀前半のドイツ・オーストリア音楽、とくにオペラについて。著書に『リヒャルト・シュトラウス 自画像としてのオペラ』(アルテスパブリッシング、2009)、『帝国のオペラ』(河出書房新社、2016)、『オペラ対訳×分析ハンドブック シュトラウス／楽劇 サロメ』(アルテスパブリッシング、2022)など。

Daisuke Hirose



みずから大学生時代を振り返ると、初めのうちは研究の道に進むなどとはこれっぽっちも思わず、決して向学心ある学生とは言えなかったなあ、とあらためて恥に堪えません。大学生だった1990年半ば、東京には、豪華な海外の歌劇場公演が続いていました。毎年のように圧倒的なオペラに接し、どうしてこのような芸術が生まれるに至ったのだろう、その深淵をもっと知りたい、と、いつの間にか研究という名の「沼」にはまり込んだのです。比較芸術学科を目指される学生の皆さんには、ぜひこの青山の地で、そんな一生を左右するような、どんな時代であろうとも決して色褪せることのない芸術の底力に触れていただきたいと思っています。世の中には、ひとの価値観を搖さぶり、一生を捧げても惜しくないと思えるような、そんな芸術があるのです。



# 演劇 映像

## Message

Katsura  
Sato



佐藤 かつら

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。鶴見大学文学部専任講師、同大学准教授を経て2012年に青山学院大学文学部に着任。専門は日本芸能史、特に近世近代移行期の歌舞伎。著書に『歌舞伎の幕末・明治一小芝居の時代』(ペリカン社、2010年)、共著に『円朝全集』第一・十・十二巻(岩波書店、2012年・2014年・2015年)等。新潟県生まれ。小さいころから祭礼の芸能を喜んで見物していたことが、今思えば、歌舞伎の研究をしている自分の原点となっています。

私は幕末明治期の歌舞伎、特に小芝居(こしばい)と呼ばれる、より大衆の身近にあった芝居に着目し研究しています。当時は歌舞伎においても大きな変革期で、歌舞伎と西洋文化との出会いと衝突など、とても面白い時代です。研究者への一番の道しるべとなったのは、後に指導教員となる先生にお話をうかがいに行ったことです。本や研究動向などを教えていただき、他の先生を紹介していただきたりもしました。多くの先生との出会いが今の自分に大きく影響しています。学生の皆さんには、授業以外にも積極的に先生と話すことをぜひお勧めします。何かしてもらうという受け身の態度ではなく、主体的な姿勢が必要ですが、得ることがたくさんあるはずです。歌舞伎には、華やかさ、美しさ、人生の哀しみ、真心と、さまざまなものが詰まっています。皆さんに、歌舞伎ほか、日本の芸能の面白さや魅力、研究の楽しさと面白さを伝えられるよう、努力していきたいと思います。



演劇映像の領域では、演劇と映像という総合芸術の鑑賞・研究を通して、芸術の真価やその人生における意味を見きわめる目を養うことを目的とします。

現代の社会を生きる私たちの周囲には、生の舞台芸術はもちろんのこと、映画やテレビのようにメディアを利用した劇的芸術が氾濫しています。そうした演劇や映像の芸術をよりよく理解し、またそこから深い感動を味わうために、私たちは何をなすべきでしょうか?

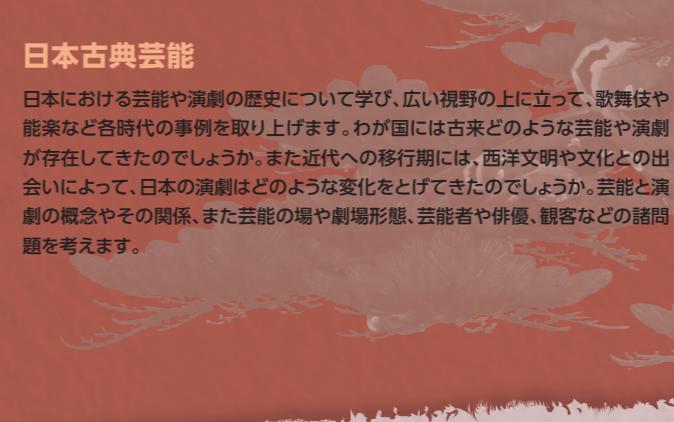
演劇映像の名作に触れ、ほんのりだけがもつ感動を味わうのが第一歩です。そして、古典のテクストをじっくりと読み込み、たしかな知識と鑑賞力を育むことが肝要です。

演劇は人類の歴史とともに歩んできました。舞台芸術、およびメディアを活用した映像芸術が成立するためには、多くの専門家が集い、各自の持てる力を十分に發揮することが

不可欠です。まさに総合芸術といわれる所以です。総合芸術としての演劇映像には、多様な鑑賞と研究の方法があります。古今東西の演劇映像の世界を、美術や音楽との比較を通じて学び、演劇映像が人類の文化や歴史において果してきた役割について考えていきましょう。

### 日本古典芸能

日本における芸能や演劇の歴史について学び、広い視野の上に立って、歌舞伎や能楽など各時代の事例を取り上げます。わが国には古来どのような芸能や演劇が存在してきたのでしょうか。また近代への移行期には、西洋文明や文化との出会いによって、日本の演劇はどのような変化をとげてきたのでしょうか。芸能と演劇の概念やその関係、また芸能の場や劇場形態、芸能者や俳優、観客などの諸問題を考えます。



### 西洋演劇

ヨーロッパの古代から現代まで2000年以上におよぶ西洋演劇の歴史を把握し、上演を前提としたテクスト(戯曲)の読解を行います。演出家、制作者、役者、舞台美術家、音楽家など演劇にたずさわる人々の仕事を学び、演劇に関するさまざまな視座を構築すること狙いとします。芝居が上演された時代や社会背景に留意しつつ、舞台芸術の本質を追究していきましょう。

### 映像・映画

無声からトーキー、白黒からカラー、フィルムからデジタルへと、たゆまなく過激な変化をとげてきた現代のメディアの世界を研究の対象とします。映像、音響、時間、編集、鑑賞環境といった諸テーマを設定しつつ、映像や映画を批判的に学ぶ眼力を養います。さらに、映像メディアの誕生と発展が、今日の社会におよぼした影響についても考究していきます。



三浦 哲哉

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース博士課程修了。博士(学術)。専門は、おもにアメリカとフランスの映画表現論。著書に『LAフード・ダイアリー』(講談社、2021年)、『食べたくなる本』(みすず書房、2019年)、『「ハッピーアワー』論』(羽鳥書店、2018年)、『映画とは何か——フランス映画思想史』(筑摩選書、2014年)、『サスペンス映画史』(みすず書房、2012年)。

おもにアメリカとフランスの映画表現について研究しています。

映画が生まれたのは19世紀末で、130年近く歴史を持っています。時代ごと、地域ごとにまったく異なる美しさがあります。たとえば1920年代までのサイレント映画にしかない、純粋な視覚体験の迫力があり、1930年代の(テレビ普及以前です)眞の黄金時代ならではの端正な構成美があり、1950年代フランスに生まれた現代映画のまばゆいばかりの瑞々しさがあり……等々。個性豊かな映画作家たちが、歴史を彩ってきました。授業では、演出・演技・撮影・美術・音響・特殊効果などさまざまな観点から、多種多様な映画のよろこびを学生のみなさんと共有したいと思っています。

Yuriko  
Inoue



井上 由里子

大阪大学大学院文学研究科美学文芸学専攻博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。静岡文化芸術大学専任講師、同大学准教授を経て2023年に青山学院大学文学部に着任。専門は西洋演劇史、とくにフランスの現代演劇。共著にValère Novarina. *Les tourbillons de l'écriture* (Hermann, 2021), *La république des traducteurs. En traduisant Valère Novarina* (Hermann, 2020)など。共訳書に『シャルロット・ペリアンと日本』(鹿島出版会、2011年)。

西洋演劇、とくにフランスの現代演劇における古典の受容について研究しています。

日本の公教育には演劇が導入されていないため、西洋演劇の古典と言われてもピンとこないかもしれません。けれどもブロードウェイ・ミュージカルの『マイ・フェア・レディ』や『ライオンキング』の背景をひもといてみると、そこには西洋演劇から東洋の伝統芸能まで、じつに様々な古典の技が息づいています。テレビや映画でおなじみの「ドラマ」も、語源をさかのばれば、古代ギリシアの哲学者アリストテレスの演劇論『詩学』にたどりつけます。どうやら私たちは知らず識らず東西の演劇の古典を吸収しているようです。

授業では、劇場にも足を運びながら、今を生きる古典の瑞々しさを味わい、皆さんとともに学びを深めていければと願っています。

# Interview

## 比較芸術学科はどんな場所?学生インタビュー

●美術 ●音楽 ●演劇映像

出光 比較芸術学科准教授の出光佐千子です。今日は、本学在学中の皆様に学科の魅力について語っていただきたいと思います。皆様よろしくお願ひいたします。

学生一同 お願いします。

出光 では最初に、この学科に入ったきっかけについて教えてください。

吉本 大学に入るにあたって、どんなことに自分は興味あるだろうと考え、あれもある、これもある、と迷いました。それで最終的には、昔からすごく好きだった仏像のことや音楽のことも含めていろいろと包括的に勉強できる比較芸術学科を選びました。

出光 美術も音楽も、そして演劇映像も学べる環境が理由ということですね。

高山 私は小さいころから歌舞伎や日本舞踊に興味がありました。歌舞伎や日本の伝統芸能を学ぶには青山学院大学の比較芸術学科がいいなあって考えて。大学では好きなことを学びたいという高校生からの思いもあって、比較芸術学科を選びました。

南 僕は、その、大そうな理由は特になくて。この学科の一般受験は、小論文に特色があり、ちょっと特殊な入試形式だったので、試しに受けてみたらまたまご縁をいただきました(笑)。非常に幸運なことで、今は楽しく授業を受けています。

出光 では実際にあってみて、この学科のイメージはいかがですか。

吉本 イメージ通りって言ったらなんですが、いろんなことをすごく幅広く学ぶことができています。今まで知らなかった、自分がそれまであまり興味がなかったようなことでも学んでいけたのは、すごく良いことだったと思いますね。

高山 私は入学以前、歌舞伎や日本舞踊を、好きという感情だけで終わらせていたんですけど、比較芸術学科に入って、研究や、学びの視点から歌舞伎を観るようになりました。

出光 単に観て楽しむだけではなく、文献を読んだり、色んな人の意見に耳を傾けながら深く勉強できるというところですね。

高山 はい、毎日充実しています。



【参加メンバー】  
司会：出光佐千子(本学科准教授、日本美術研究)  
(以下、写真左から順に)  
【美術】東洋美術専攻(津田ゼミ)  
3年 吉本伊吹  
【演劇映像】古典芸能専攻(佐藤ゼミ)  
3年 高山愛咲子  
【音楽】西洋音楽専攻(那須ゼミ)  
3年 南直冴



南 僕はこの学科には、いい意味で普通の人気が沢山いるなと思っていた。というのは、芸術学科って言うと、ベートーヴェンみたいな長い髪をゴシャゴシャしながら産みの苦しみを訴えている、というかんじの人が沢山いるのでは……みたいな不安があったんです。けど、入ってみたら、まあ僕みたいに、自分の興味を純粹に追求していきたいという人がたくさんいたので、そこは安心しました。コミュニティも作れて、楽しく授業を受けることができるかなって感じがします。

出光 この学科に入って、自分が変わったなと思うところありますか。

吉本 さっきの話とも繋がるんですけど、作品を見る時に、何も知らない状態で見て、それで感動するっていうものもあるとは思うんですけど、学科に入ってからは、色々と知識を得た上で観るようになり、そのことで、作品についての感想も、そこで抱く感情の幅も、広がってきたと思います。

高山 私は、入学したきっかけが歌舞伎でしたが、1年次に受ける「比較芸術学入門」の授業で、幅広い西洋の文化や演劇に触れることができました。学科の授業で、自分の価値観とか視野が広がったなと思うことがすごく沢山あります。

出光 日本人のアイデンティティとも言える歌舞伎などの芸術を、国際的な視野に立つて見られるところも魅力の一つですよね。

南 僕は、一つのアートワークとか一人のアーティストを主体的に掘り下げて調べていくみたいな機会が増えたと思っています。入学前もそういうことはしていたと言えばしていたんですが、受動的に摂取しているものも多かったです。入学してからは、レポートなどの課題も与えられますし、もっと主体的に情報を集めるようになりました。

出光 印象や思い出に残っている授業などはありますか。



吉本 「原書講読」という授業です。音楽に関する事を、英語で書かれた本を通していろいろと読んだんですけど、それで改めて思ったのは、もし日本語しか使えなかったら、すごく限られたことしか分からぬといふことでした。いまは英語ができれば、YouTubeとかで英語のインタビューなどを観ることができます。「原書講読」を通して、英語の音楽用語を知ることができ、自分が見れるコンテンツの幅が広がって感謝しています。

高山 私も吉本君と一緒に、「原書講読」が印象に残っています。高校生の時から英語に苦手意識を持っていて、勉強するとき億劫になることがあったんですけど、自分の好きな芸術の分野で英語を学ぶと、すごく意欲的に、自分から学ぼうって思えるようになりました。それが大学に入って得られたことですね。あと二つ目が、研究会です。比較芸術学科には、研究会という制度があります。1年生の終わり頃から研究会に入ったことで、先輩方と一緒に鑑賞教室に一緒に行かせていただいたのがすごく記憶に残っています。

出光 学科には芸術や音楽や古典芸能の研究会があり、それに入ると、無料で美術館に入れたりコンサートを聴きに行けたりしますけれども、そういうところがこの学科の魅力でありますよね。

南 1年生の時に受けた、那須先生の音楽の授業が印象に残っています。那須先生は、いわゆる「クラシック音楽」ができるよりも少し前の時代の西洋の教会音楽を研究しています。それを、歴史的な背景であったりとか、あるいは同時代の美術であったりとか、あるいは音楽の数学的な側面であったりとか、いろいろな側面を整然と論理的に積み上げるように説明されていて。音楽の話を聞い

ているのか、美術の話を聞いているのか、数学の話を聞いているのかわからない感じがすごく面白くて、一番印象に残っています。

出光 最後に、これからこの学科に入りたいと思う皆様へのメッセージを一言ずつお願ひします。

吉本 芸術って難しいかなとか、知識がなきゃいけないのかなと思うかもしれないんですけど、そんなに気張らずにというか、楽しい気持ちで目指してもらえたらいかなと思ってます。

高山 先生方もとても優しく一から教えてくださるので、好きなものが見つからない人でも、入学して見つけるのでも全然遅くないので、まっさらな気持ちで入学してもいいし、私みたいに好きなことがあって、それを追求したい人にもおすすめできる学科なので、皆さん来てほしいなって思います。

南 僕も吉本くんと同じで割と軽い気持ちでもいいのかなと思っていて。逆に言うとあまり環境に期待をしそうに、ありのまま自分がいまやりたいこと、いま大学で学びたいことに忠実に、学部や学科を選択するのが大事なことかなって思います。

出光 お話をありがとうございました。



# 卒業生からのメッセージ

## 芸術オタクたちに囲まれた贅沢な環境



アートアクアリウム美術館  
(株式会社Amuseum Parks)  
比較芸術学科2020年度卒業

馬渕 理彩

いとも貴重な日々だったので、その環境から離れたいま、より一層強く感じています。友人との付き合いも同様で、みんなそれぞれに好きな分野があり、どんな視点で芸術と触れているのかを共有できていたのは、私にとってとても刺激となりました。4年間、思いつ切り芸術と向き合う時間を持つことは、社会に出てからも大きな意味を持つと、信じています。

## 自分の“好き”に正直になれる場所



静岡放送株式会社  
比較芸術学科2020年度卒業

影島 亜美

に所属する友人たちは、とても個性豊か!同じ作品を鑑賞しても、それぞれが異なる感想を持ち、熱を持って語り合える環境が嬉しかったです。

現在、私は地元静岡の放送局のアナウンサーとして、テレビ・ラジオ番組を担当しています。芸術や手仕事の分野で活躍する方とお話しする機会も多く、比芸で得た知識が今の仕事にも生きています。皆さんも、ぜひ比芸で輝く思い出を作ってくださいね!

## 比較し、選択する学科



イオンリテール株式会社  
比較芸術学科2020年度卒業

林 希美

比較芸術学科の魅力は、その道のオタクたちの話を思う存分聞ける環境だという点です。比芸の先生たちは、大学の教授である前に、芸術のオタクなのだと私の目には映っていました。熱量こめて芸術への愛情を語る先生をみて、変わった先生だな…と思ったこともありました。その後の道のプロフェッショナルから深いお話を聞くことができるのには、比芸でしか体験できない内化する行為です。比芸で培う物事の相違を頭にする比較という手段、芸術という正解のないものを抽象化し、言語化する能力や柔軟性は正しく皆さんの力になり、より良い選択に繋がります。

意図のある選択は時に想定外を導きます。入学当初平凡なアニメオタクだった私は、比芸で宝塚や映画と出会い、卒論では能・歌舞伎における鬼をテーマに執筆しました。今は総合小売業に従事し、お惣菜を通して人々に「日常」を提供しています。是非皆さんも選択を重ね、未知との遭遇を楽しんでほしいです。

## 感動は無限だと知った4年間



東映株式会社  
比較芸術学科2020年度卒業

三宅 萌

ミュージカルについて多角的に学びたいと思い受験した比芸。西洋演劇に限らず様々な芸術に触れる中で、気付けば私は映画に惹かれていきました。舞台とはまた違う、より自由な表現を許された映像芸術の面白いこと…!シネフィルの同期たちに比べると劣等生だった私の拙い意見にも、友人や先生は丁寧に耳を傾けてくれました。

「誰の感性も否定しない場所」。それが比芸です。大学での学びは、私の感性を鋭くも優しくしてくれました。高校時代、進路に悩み抜いてここに決めた自分に、よくやったと言いたいです。

今年の4月からは映画会社に勤めています。配属先は、なんとテレビ関係の部署。また新たな世界への挑戦ですが、比芸で培ったものを忘れず、精一杯仕事したいと思っています。

私を思いがけない未来に連れててくれた比芸に、心からの感謝を込めて。

## 特別授業の紹介

一年生の必修科目「比較芸術学入門A・B」をはじめとする比較芸術学科の専門科目では、ときおり芸術諸分野の専門家をゲストスピーカーとしてお招きし、特別授業を実施しています。また、比較芸術学会大会でも毎回各分野を代表する研究者や実演者・制作者の方々に講演をお願いしています。2021年度と2022年度に行われた特別講演をご紹介します。

### 第9回比較芸術学会大会《2021年度》

鈴木雅明氏レクチャー・コンサート  
(青山学院宗教センター共催)



バロック音楽の演奏団体として世界最高峰のひとつに数えられるバッハ・コレギュム・ジャパンの創設者でご自身優れたオルガニストでもある鈴木雅明氏をお招きしました。鈴木氏は、教会で一般信徒が歌う讃美歌のメロディをもとにバッハがいかに素晴らしい作品を作り上げているか、実演を交えてお話くださいました。学生たちはバッハの匠の技に驚嘆し、また神業のような手さばき・足さばきで壮大な音を繰り出す鈴木氏のパイプ・オルガンの演奏に酔いしました。

### 第10回比較芸術学会大会《2022年度》

濱口竜介氏トーク「映画と笑い」



世界の映画祭、批評家連盟から数多くの賞を授与された『ドライ・マイ・カー』などの作品によって、近年世界的な注目を浴びる映画監督・濱口竜介氏をお招きしました。テーマは「映画と笑い」。伝説の無声喜劇俳優バスター・キートンから、フランスの喜劇作家ジャック・タチを経て、ポルトガルの巨匠マノエル・デ・オリヴェイラ。ミュージカル・コメディのダンサーたちに至るまで、監督が敬愛する映画人たちの豊かな事例を縦横無尽に挙げつつ、映画の笑いの奥深さについて語っていただきました。

## 課外ワークショップの実施

比較芸術学科では、ワークショップを実施し、美術・音楽・演劇映像を実地に触れる機会を設け、現場でしか伝えられない「鑑賞のツボ」を直に教授します。2023年度に実施予定の催しは以下の通りです。



7月 ■歌舞伎鑑賞教室(国立劇場大劇場)

12月 ■文楽鑑賞教室(国立劇場小劇場)

後期 ■日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会

# 比較芸術学会

本学科には、授業と課外活動のほかに、学生のみなさんが協力しあいながら自主的に学び、研究の成果を発表するための学会組織「青山学院大学比較芸術学会」があります。2013年度に設立されたこの学会は、学生全員と専任教員を主な学会員とします。活動内容は次の通りです。芸術全般についての専門的な研究成果を発表する学会誌『パラゴーネ』の発行(年1回)。学生が主体となって、芸術や文化について自由に執筆する『HIGE会報』の発行(年3~4回)。比較芸術学会大会の開催(年1回)。また、美術・音楽・演劇映像の各分野に「研究会」があり、それぞれ鑑賞会や勉強会を定期的に開催しています。学会活動を通して、学生のみなさんに自ら学ぶことの面白さを存分に体験していただきたいと希望しています。



## 大学院 文学研究科 比較芸術学専攻

本専攻は、急激に変化しつつある今日の国際社会や地球環境のなかで、社会や自然と芸術との関係、および芸術がこれまでの人間の歴史や社会に果たした役割などを改めて考えることを基本としています。したがって、芸術系諸学との相互関係はもとより、歴史や哲学、文学をはじめとする人文科学系諸学とのそれをも踏まえながら深く掘り下げ、研究することがその目的です。

本専攻で取り上げる領域は学部段階(本学文学部比較芸術学科)と同じく、芸術系諸学のなかでも中心的かつ古典的な研究の蓄積をもつ美術史学、音楽学、演劇映像学の諸分野であり、志望する学生は、各自希望する領域の基礎的学力を備えていることが前提となります。そして、入学後はその基礎のうえに立ってそれぞ

れ専門分野の研究に入りますが、そこでは常に上記の他領域に関心のまなざしを向け、それらとの比較をつうじた専門的な視野が要求されるでしょう。

授業は、実作品の鑑賞研究を中心に、文献史料の読解力を蓄える原典講読や論文執筆のための文章力を鍛えるレポート作成、そしてプレゼンテーション能力を高める課題発表などで構成されています。博士前期課程では、そのそれぞれについて学部段階よりはいっそうの充実が求められ、成果を修士論文としてまとめることとなり、また同後期課程では、学会発表や学術誌への投稿を経て、博士論文の作成が最終的目的となります。これらの研究過程で、専門分野における社会貢献や就職の道もひらかれるでしょう。

## 比較芸術学専攻 博士前期課程

授業科目		
基礎科目	比較芸術学研究法Ⅰ、Ⅱ	比較人文学研究法Ⅰ、Ⅱ
専門科目	日本・東洋美術史(1)研究Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史(2)研究Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史(3)研究Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史(1)研究Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史(2)研究Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史(3)研究Ⅰ、Ⅱ	日本・東洋美術史(1)演習Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史(2)演習Ⅰ、Ⅱ 日本・東洋美術史(3)演習Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史(1)演習Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史(2)演習Ⅰ、Ⅱ 西洋美術史(3)演習Ⅰ、Ⅱ
研究指導	研究指導演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	

## 学生インタビュー



比較芸術学専攻  
博士後期課程1年  
梅原 優花さん

私が美術に興味を抱いたのは、小学生の頃にルーブル美術館に行き、名作の数々に圧倒されたことがきっかけです。それから美術の本を読み漁り、大学では本格的に美術を学びたいと思い、この比較芸術学科に進学しました。美術だけでなく、映画や演劇など様々な芸術に触れる中、それでも西洋美術を学びたいという思いと、美術館の学芸員になり、美術作品の魅力を伝えたいという目標を持ち、大学院に進学しました。

博士前期課程では、修士論文の執筆という大きな目標を掲げ、同じゼミの仲間と共に切磋琢磨してきました。同じゼミの仲間の発表や研究を通じ、自身の専門以外にも学ぶことがとても多いです。指導教員の方々、また担当指導の水野先生、池野先生には、修士論文の指導のみならず、学芸員になりたいという私の目標をあらゆる角度からサポートしていただきました。

現在、私は博士後期課程にて自身の研究を深めると共に、美術館での学芸員のインターンを通じ、引き続き自身の目標に向かって日々努力し、とても充実した毎日を送っております。

## 修了生からのメッセージ



郡山市立美術館  
比較芸術学専攻  
2020年度修了  
鈴木 えみこさん

### 深く学び、広く知る

比較芸術学科を目指す人の中には、「学芸員」なんて仕事もいいな、と考えている方もいるかもしれません。私も一度企業に就職した後に、やはり学科で学んだことを活かして働きたいと思い直し、大学院に入りました。

大学院では研究に打ち込み、そして研究方法を体得していくことが大切です。しかし実際の学芸業務では、一つの研究だけに没頭していればいいという事はほとんどなく、様々な地域や時代の文化芸術についての知識も必要とされます。その意味では、比較芸術学科・専攻で広く芸術分野について学んだことは、私の今の仕事においてアドバンテージになっていると思います。

比較芸術学科から学芸員を目指す人には、大学院では研究について多くの先生方や友人達と話し、学外でも学会・勉強会に参加する、博物館でのインターンやアルバイトなどを通じて、フットワークを軽く、視野を広くすることをお勧めします。学生特権を活用して、将来設計に役立てましょう。



茨城県立歴史館  
2017年度博士前期課程修了  
2020年度博士後期課程単位取得退学者  
政人さん

### 「比較」による越境した学び

漂う雲に乗り、極楽浄土より迫り来る阿弥陀如来。菩薩たちは楽器を奏で、虚空には蓮華が舞う。そうした幻想的情景に魅せられた私は、在学中に阿弥陀來迎図の研究に取り組みました。この美術史の研究に多角的視野を与えてくれたのが、学科の特徴である美術、音楽、演劇・映像を「比較」した学び。音楽史や芸能史の講義で鑑賞し得た、大陸から伝来し変容した日本古来の楽器や行道儀礼についての知識は、阿弥陀來迎図の図像を読み解く際に非常に有益なものとなりました。

現在は学芸員として、仏教美術の他、近世絵画や漆工品などの美術工芸全般を担当し、日々調査研究・展示活動を行っています。そうした時、当学科で身に着けた「多角的視点に立ち、五感を研ぎ澄ませて物事を観察する」姿勢が現在の仕事に繋がっていることを強く実感しています。

マイクロとマクロの視野を持ち芸術を学ぶ。比較芸術学科での学生生活は、他では得られない気づきを与えてくれるでしょう。

# 卒業後の進路

本学科の学生には、芸術分野への道はもちろん、文学部の他学科と同じように、一般企業への道も広く開かれています。

## 取得可能な資格

学芸員、司書、社会教育主事



## 2022年度 進路・就職先

### ■大学院・大学・専門学校

青山学院大学大学院  
ILAC  
学習院大学大学院  
早稲田大学大学院  
東京大学

### ■建設業

株式会社ヒカリヤグループ

### ■製造業

キオクシア株式会社  
スタンレー電気株式会社  
凸版印刷株式会社  
株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ  
ショーンズ  
富士通株式会社  
■情報通信業  
株式会社アイティーブレーン  
株式会社エイブルジャパン  
AnyMind Group株式会社  
JCOM株式会社  
ジェット・テクノロジーズ株式会社  
株式会社スクウェア・エニックス  
株式会社スマッシュ  
株式会社セブテニ・ホールディングス

### ディップ株式会社

東映株式会社  
東京ガス i ネット株式会社  
トーテックアメニティ株式会社  
株式会社フューストキャリア  
富士ソフト株式会社  
富士通ネットワークソリューションズ株式会社  
株式会社山口シネマ  
株式会社レイヤーズ・コンサルティング  
■運輸業・郵便業  
株式会社AIRDO  
ANAエアポートサービス株式会社  
日本郵便株式会社  
■卸売業・小売業  
株式会社アインホールディングス  
株式会社アデランス  
一菱製茶株式会社  
株式会社クリエイトエス・ディー  
株式会社島忠  
株式会社鶴屋百貨店  
DCMホールディングス株式会社  
株式会社トーハン  
鳥居電業株式会社  
株式会社ヤマハミュージックジャパン  
リッシュモンジャパン株式会社

### ■金融業・保険業

ソニー損害保険株式会社  
ビーエムジー株式会社

### ■不動産業・物品販賣業

株式会社映像センター  
野村不動産ソリューションズ株式会社  
株式会社プライムプレイス

### ■広告・広告代理業

エン・ジャパン株式会社  
株式会社sizebook  
株式会社サイバー・バズ  
株式会社DACPホールディングス

### ■生活関連サービス業・娯楽業

株式会社アイムワールド  
株式会社アミューズ  
株式会社ニュートン

### ■その他のサービス業

株式会社ニチイ学館  
株式会社ボーリード  
株式会社マイナビミドルシニア

### ■公務

地方公務員(市町村)・千葉県  
地方公務員(都道府県)・埼玉県

※アイウエオ順

# 知っておきたい Q&A



## 学科名の“比較”には、学ぶうえでどのような意味があるのですか？

例えば芝居やミュージカル、映画には“美術”と“音楽”が不可欠です。そのため、ふたつの分野を比較しながら作品を探求すれば、より深い理解が得られます。こういったジャンル間の比較学習、あるいは時代間の比較学習や地域間の比較学習などを通して、両者の類似性、異質性に気づいたり、関連性、独自性を知ることができ芸術探究が進展する。そこに比較学習の優位性があります。



## 21世紀の現代に、古典を重視して学ぶのは、なぜですか？

音楽でいえばクラシックからジャズ、ロックへというよう、時代も前衛を走る芸術は、それ以前の伝統を踏まえ、そこに異議を唱えて登場してきます。歴史に磨き抜かれた古典の原典と真摯に向き合えば、現代でこそ新たな可能性を発見できるはずです。歌舞伎も、シェイクスピアも、そこに現代の解釈や演出を行えば現代の作品に生まれ変わる。古典には、それだけの奥深さがあるからです。

## 入試情報

詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。▶ <https://www.aoyama.ac.jp/>

### 【一般入学試験】

募集人員	Web出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
全学部日程	約5名	2024年1月6日(土) ~1月19日(金)23:00まで	2024年2月7日(水)	2024年2月14日(水)
個別学部 日程	約45名	2024年1月6日(土) ~1月23日(火)23:00まで	2024年2月14日(水)PM	2024年2月23日(金)
				2024年3月1日(金)

※出願書類提出期限は、全学部日程はWeb出願期間締切日3日後、個別学部日程はWeb出願期間締切日2日後郵送必着です。

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は2024年3月14日(木)です。

### 【自己推薦入学試験】

出願資格は、次の(1)～(3)のすべての項目に該当する者。

- (1)以下の①または②のいずれかに該当する者  
①2024年3月に日本の高等学校(または中等教育学校の後期課程。以下同じ)を卒業見込みの者※
- ②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2024年3月31日までに修了見込みの者
- (2)本学科を第一志望として本学科へ進学を希望する者
- (3)以下の①または②のいずれかに該当する者  
①高等学校における「全体の学習成績の状況」が4.0以上である者

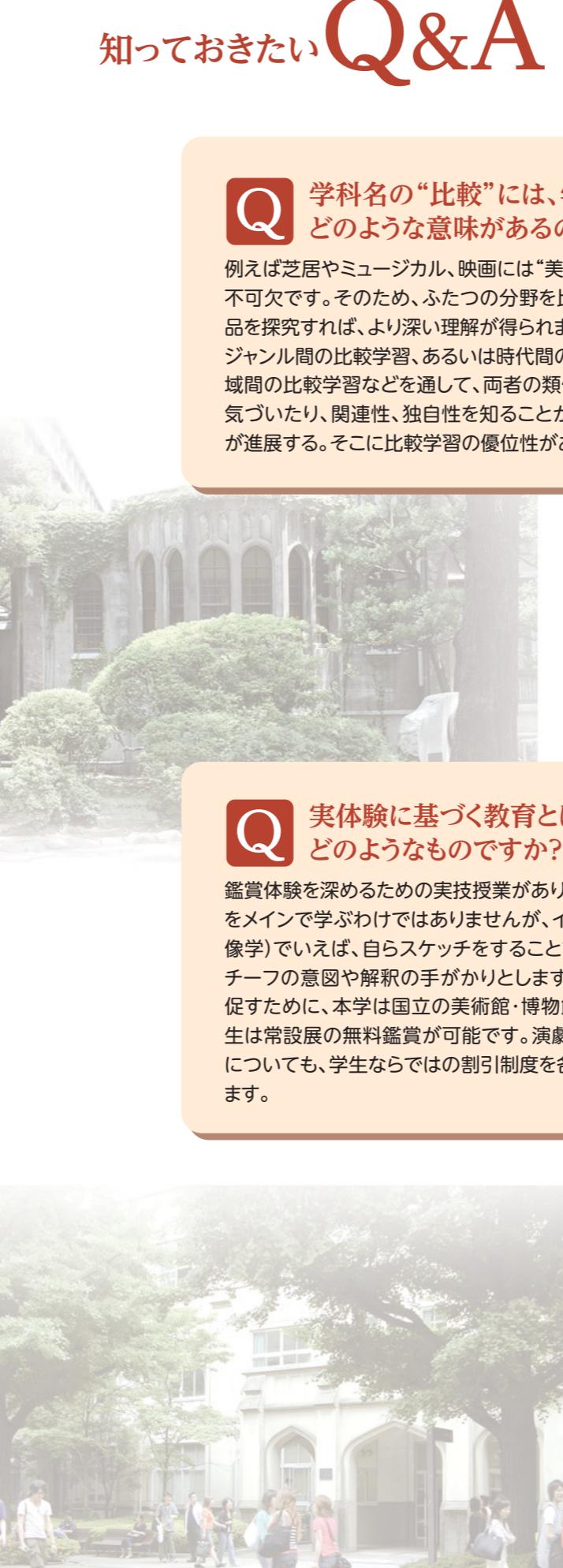
②下記、3点すべての要件を満たす者

- 1)高等学校における「全体の学習成績の状況」が3.8以上であること
  - 2)高等学校における「外国語」の「学習成績の状況」が4.2以上であること
  - 3)高等学校における「世界史B」または「日本史B」のいずれかの「学習成績の状況」が4.2以上であること
- ※日本にある外国人学校(インターナショナルスクール等)を卒業見込みの者、「高等学校卒業程度認定試験」合格者は含みません。

募集人員	選考方法	出願期間	合格発表日
第1次審査 約8名	書類審査	2023年10月3日(火)～10月6日(金) 郵送必着	2023年11月10日(金)

第1次審査  
合格者のみ

選考方法	試験日	合格発表日	入学手續締切日
芸術に関する基礎知識、面接	2023年11月23日(木)	2023年12月5日(火)	2023年12月15日(金) 郵送必着



## この学科で学ぶと、どのような教養が身につきますか？

“芸術”は人類の根源的な営みであり、時代を映す鏡に例えられます。なかでも古典を学ぶことは、人間の本質を理解することであり、自分自身の人間形成につながります。どのような社会や環境に身を置いても、自信をもって考えを表明したり、異文化の相手とも円滑に対話できるような寛容さを養うことができるはずです。そして、現代に求められている人間性を尊重した課題解決力も身につくでしょう。

